

インターバンクの声（2015年12月7日）

週末に発表された11月の米雇用統計は、非農業部門雇用者数が市場予想を上回る21万を超す強い結果となり、今月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での利上げ確率がさらに上昇することになったようだ。この指標結果に、ドル円は発表前の122円台後半の水準から50銭ほど円売りになる反応を見せたが、すでに市場の利上げ見通しが相当高まっていた中では、この程度の変化が精一杯だったのも仕方がない。これで来年1月からの米雇用統計の発表を待ち構える必要がもはや無くなったと言いたいところだが、2度目、3度目の利上げのタイミングを占ったり、政策維持となるかを判断するために、注目度こそ下がるものの、ディーラーを始めとする市場部門の方々の月初め金曜日の残業は続くことになりそうだ。年内の営業日数もあと4週間足らずになったが、ここからクリスマス時期頃まで、次はユーロ相場に注目が集まりそうな気がする。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。